

# 先人の知恵から

## 31

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

コロナ禍の中、疲れがたまってきて頭が回らない。それでも何とか先に進めておこう。今回は次の8つ。

- ・ しゅうとめ 姑の十七見た者がない
- ・ 十人十色
- ・ 十分はこぼれる
- ・ じゅうよ ごと 柔能く剛を制す
- ・ しゅうつらん ほま 出藍の警れ
- ・ 朱に交われれば赤くなる
- ・ 正直は一生の宝
- ・ 正直者が馬鹿を見る

### <姑の十七見た者がない>

姑の自慢話はあてにならないことのとえ。姑は自分の若い時のことを引き合いに

出して、自慢したり嫁に小言を言ったりするが、そのころを見た者はいないのだから、真偽のほどはわからないということ。

嫁姑問題は、最近少なくなった。というのも、姑との同居が減ったからもあるだろう。しかし、二世帯住宅などの方法で、半同居と言う話はある。その場合大抵が長男の嫁と言うことになる。姑にとって息子は殊の外可愛い。となると姑にとって嫁は、可愛い息子を取られたと感じる相手になってしまうこともある。それが嫁姑の確執に繋がる場合がある。いわゆる嫁いびりの中には、酷いものもあるが、やり方の違い、料理の味付け等家事全般に対する、姑の枠組みと嫁の枠組みのずれからくる指摘が中心だったりする。そういう時に嫁が口答え

でもすれば、喧嘩になる。最近はそういうことを見越して姑が大人しく、嫁のやりたいうようにさせることも増えているが、いまだにお嫁さんの立場からの相談で、「姑が・・・」ということはある。そういう時にこの諺を使って、「姑が色々言っても聞き流していこう。」と言う話をする。日々の生活の中で色々言われるのはとてもつらいし大変であることは想像に難くない。しかし、普通に考えれば先に姑が逝くのである。何を言われても、気にしないで行ければ、姑も諦めてくれることも多いし、子どもたちが大きくなってくるので、嫁の立場も変わってくる。姑との関わり方のヒントの一つとして使えるのではないだろうか？

### <十人十色>

人の考え方や好みなどは、みんなそれぞれに違っているということ。「十人寄れば十色」ともいう。

スマホ情報に左右される母親や子どもたちが増える中だからこそ、この諺が光ると思う。人それぞれなのだから、誰かがスマホで流している情報が一般論かどうか分からないし、正しい情報かどうか分からない。捉え方も感じ方も様々であろう。そういう情報に振り回されるのではなく、自分なりの考え方をしっかり持つことが大切である。その上で他の意見を聞くようにすると、ただ悪戯に振り回されないだろう。色々な考え方があるということを知っていることは自分にとっての資源にもなり得るのだが、振り回されるようでは問題である。

また、「誰それがこう言っていた、ああい

っていた、自分は大丈夫だろうか？これで良いのだろうか？」と相談される方にもこの諺で対応することが多い。先ず自分はどう考えるのかからはじめ、しっかりした自分を確認してもらわないと先に進めない話である。人それぞれ、何がその人にあるのかも異なるのだから。

英語では・・・

So many men, so many minds. (人の心はそれぞれ違う)

### <十分はこぼれる>

何事もほどほどにして、あまり欲張らない方が良いという教え。容器の淵まで入れた水は、あとはこぼれるばかりだという意から。

100%を求める人が増えているように感じる昨今である。100点満点と言うことにずっと慣らされてきたせいもあるのだろうし、歌などにも「100%元気」など歌詞になっているが、100%と言うのは仕事や子育てではあり得ない。捉え方にもよるし、上を目指せばきりが無い。子育て中の母親にも完璧を目指す方が増え、それが叶わない事でイライラしたり、自責の念に駆られたりしている。

十分はこぼれるというこの諺は、視覚に訴えるので伝わりやすい。マス酒ならともかく、水でも何でもコップ一杯まで入れてしまったら口元にもっていく間にこぼれるし、口を近づけて飲むのは行儀が悪いし、格好も悪い。少し少なめに入れればコップを口に運ぶのも簡単だろうし、こぼれれば

あとの始末も必要だが、そういう心配もない。

子育て中の母親たちに対し、自分自身を追い詰めるだけの100%とか完璧とか十分というものから、少し自分を解放し、程々を目指してもらいたい、そんなことからこの諺を使っている。

### ＜柔能く剛を制す＞

弱い者がかえって強い者に勝つことのとえ。柔軟性のある者が、そのしなやかさによって、かえって剛強なものを押さえつけることが出来るということ。「弱よく強を制す」ともいう。

出典 三略

この諺は有名なので知っている人が多いだろう。レジリエンスである。しなやかさ、柔軟性はどのような場合でも自分を助ける術になる。体一つをとっても柔らかい方が怪我をしない。反対に強い、堅いといわれている人の場合、それ故に自分を緩やかに変えることもしにくく、拘った結果に上手く行かなくなることがある。強い人が必ずしも本当に強い、怖いわけではなく、柔軟に変化できる人の方が本当は強く怖いのもかもしれない。

子どもたちに話す時には、シャイアンとのび太君の話を入れたりしながら、この諺を説明する。強ければよいというものでもない。柔らかさ、しなやかさの大切さを今の子ども達だけではなく、若い親世代にも持って欲しい。

### ＜出藍の誉れ＞

教えを受けていた弟子が、師よりも勝るようになることのとえ。

出典 荀子

子どもたちにこの諺を使うことがある。部活動や勉強で、いつかコーチや先生を超える大人になって欲しいと思って。また保護者にも、子どもに対して、どんな子になるかは分からないということも含めて伝えている。

英語では・・・

The scholar may be better than the master. (弟子が師匠に勝ることがある。)

### ＜朱に交われれば赤くなる＞

人は交際する仲間や環境によって、良くも悪くもなるというたとえ。良い友人を選ぶことが大切であるという教え。

良い友達の基準は何かと言われると、それは中々難しいかもしれないが、時には悪い仲間と悪戯してみる経験も、決してすべてが否定されるべきものではない。ただ、まだ自分自身がしっかりしていない時に、飲酒や喫煙などの非行に入り込んでしまうと大変だと、以前はそんなことで使われていた諺ではある。しかし最近ではむしろ、夜中にゲームに熱中する仲間との関係から、昼夜逆転になり、学校に行けなくなることや、LINEやSNSでいじめを行っているグループに加わることへの警告として使うことが増えた。

夜中のゲームでしか友人を作れないとい

う状況についても考えねばならないが、夜遅くまではやらないというグループもある。仲間同士で自分たちの生活をしっかりコントロールできるような仲間とのゲームは、敢えて禁止する必要はないだろう。

LINE や SNS でいじめを行っているグループに入っていると、自分は何も書き込んでいなくても、そうしたいじめを止めようとしなかったことになるので、仲間とみられる。LINE や SNS での「いいね」にも気をつけねばならない。古い諺も、今の時代に通じる。

英語では・・・

Who keeps company with the wolf will learn to howl. (オオカミと交わりをするものは吠えるようになる)

### <正直は一生の宝>

正直であるということは一生を通じて大切に守るべき宝であり、又一生誇りとすることのできる財産であるということ。

嘘をつけば、その嘘がばれないようにまた嘘を重ねることになる。嘘に嘘を重ねているうちにどのような嘘をついたかも怪しくなる。最初から正直に話していれば、繕う必要もない。

子どもたちであれば、友達や先生や家族に嘘をつかないようにと教えられている。子どもは他愛のない嘘をつくし、それが大抵バレバレの嘘であるので、しっかり叱られて反省することになる。時には全く騙されて気づかないことも無いわけではない。ずっと時間が経ってから真実が暴露され、

大人がびっくりすることもある。我が子も小学生の頃、ジャンパーを破いて帰ってきたので、どうしたのか聞いたら、「ひっかけた」と言っていた。その時は怪我也無かったので、そうかということで終わったが、最近になって実は犬にかまれたといわれ、びっくりした経験がある。なぜ黙っていたのか、嘘をついたのか、きっと叱られると思ったのだろう。今頃暴露され、共に笑って終わった。もう大人になっているし、大したことでもないから笑ってすまされる。

例えば、家族の中で誰かが秘密を持つと、何かしら歪みが生じる。しかも、家族と言うのは敏感にそういうことに気づくものである。嘘は禁物である。

子どもたちに正直であれと言う前に、大人が正直であることを見本として見せて行くことが大事だろう。世の中嘘が一杯なので、子どもたちに正直であれと説得するのが難しくなっているし、「馬鹿正直」などと正直すぎるのもという言われ方もある。正直であることはとても大事なことなのに、正直すぎるとかえって困ることも起こる。小さい子が太っている人を見て「あの人太ってる」と言うと、母親が慌てて「しー」と言う場面を見ることも度々ある。小さい子は見たまま、思ったまを口にする。とても正直で遠慮がない。歳を重ねるうちに配慮として真実を言わないことを覚え、叱られないように嘘をついてごまかすことを覚えるようになる。そして、大人になると、更に思ったまま言うことはなくなる。

正直であれという諺などは、ワシントンの桜の話などと共に、小さいころに散々聞かされるが、こうした配慮の前に、先ずは子どもたちに正直であることを勧めるべき

だろう。そんな意味で保護者や子どもたちにこの諺を伝えている。

英語では・・・

Honesty is the best policy. (正直は最善の策)

### 〈正直者が馬鹿を見る〉

ずる賢い人は上手く立ち回って得をすることが多いのに対して、正直な人は規則や法律などを良く守るためにかえって不自由な目に遭ったり、損をしたりすることが多い。世の中には矛盾が多いものだということ。

前述の諺とは反対の意味合いになるかもしれない。正直であれと言う前述の諺は、大事である。一方この諺が意味する、世の中の矛盾については、子どもが成長してきたときに気づいてくることであろう。子どもたちは、大人の狡さや汚さに気づき、大人が嘘をつくことに憤る。そうした子どもたちの気持ちに合わせるようにこの諺を出すことがある。世の中の理不尽さに気づくと子どもたちは大人や社会への不信感にあふれる。正直が一番であることは伝えつつも、時にはそうした子どもたちの疑問、不信に寄り添うことも必要である。世界でも同様のことがあるというのも、子どもたちには納得

材料になり得る。ただ、正義感が人一倍強い子の場合には中々納得できないだろう。正直者が馬鹿を見る社会であっても、やはり正直に生きることを勧める。

英語では・・・

Honesty is ill for thriving. (正直は繁栄にとっては不都合である。)

### 出典説明

#### 三略・・・全三巻

中国古代の兵法書。周の太公望<sup>たいこうぼう</sup>の著とも、また、前漢の張良<sup>ちやうりやう</sup>が土橋の上で黄石公<sup>こうせきこう</sup>から授けられたとも伝えられるが、後世の偽作と言われる。上略・中略・下略の三巻から成り、老荘思想<sup>らうそうしやう</sup>を基調とした治国平天下の大道から政略・戦略の道を論じている。同じ兵法書の『六韜<sup>りくたう</sup>』と併称され『六韜三略』ともいう。

#### 荀子・・・全二十巻三十二編

中国、戦国時代の思想書。趙<sup>ちやう</sup>の思想家荀况<sup>きやう</sup>（荀子は尊称）の著。孟子の性善説に対して性悪説を唱え、人間の性は本来悪であるから、礼によってこれを改め、善に導いて、社会秩序を維持すべきだと主張した。